

# オスプレイ着陸帯 植物保全

# 移植希少種 6割枯死

米軍北部訓練場に垂直離着陸輸送機オスプレイが使う離着陸帯を造るため、沖縄防衛局が建設予定地に生えている希少植物を別の場所に植え替えて保全しようとしたが、6割以上が枯れるなど事実上失敗していたことが17日、分かった。訓練場がある北部地域は、国の天然記念物ヤンバルクイナがすみ生きものが豊かな森林地帯で、枯れた中にはモクセイ科の絶滅危惧種も含まれる。離着陸帯建設が自然を損なう結果となったことで、オスプレイ配備への反発が一層高まりそうだ。

(33面に関連)

## 防衛局対策、事実上の失敗

防衛局は訓練場内で、土地を造成したり森を切り開いたりして4地区6カ所に直径75メートルの円形の離着陸帯を建設する計画。1地区で建設が進んでいる。

共同通信が情報公開請求で入手した防衛局の報告書によると、防衛局は現在建設中の1地区で、2007年7月に希少植物計11株を周辺に移植した。だが11年

9月時点で、64%に当たる7株が「枯死」した。生育しているものは4段階で評価し、最も状態が悪い「不良」が1株、最も良い「良好」が1株、次に良い「おおむね

良好」が2株だった。一方、07、08年に別の地区で植え替えた計41株は11年11月時点で「枯死」は1株だったが、11年6月と比べると「良好」が26株から



12株に激減するなど状況が悪化していた。

枯れた植物名は報告書が黒塗りされ非公表だが、説明を受けた県によると、これまでにはヤナギバモクセイやツバキ科のマメヒサカキなどの絶滅危惧種、キヌランの仲間が枯れた。

防衛局は事前の環境影響評価で、植え替えて「貴重植物や生育環境が保全できると主張していた。

### 移植失敗ではない

沖縄防衛局の話 工事は自主的な環境影響評価を経て適切に実施している。移植後に一部が枯死した原因は台風で葉が落ち衰弱したことや、雨で表面土壌が浸食されたことが原因ではない

か。移植後も全て生育している場所もあり、一部が枯れたからといって失敗とは言えない。移植は実施し得る最善の環境保全措置だ。